

男女共同参画社会をめざす

New Wave No.4

ニュー・ウェーブ

平成13年（2001年）11月25日発行

特集 中学生のジェンダー意識



イラスト：馬堀中学校の生徒さん

発行／横須賀市 市民部男女共同参画課

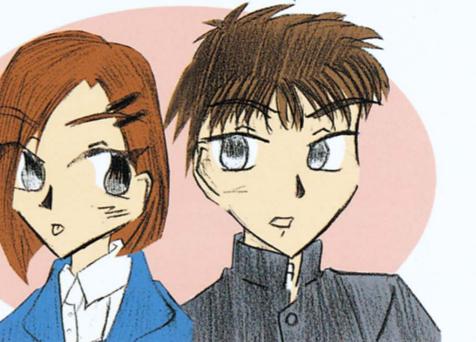
特集

中学生のジェンダー意識

中学生に聞きました～女らしさ、男らしさって何？～

未来の男女共同参画社会を担う中学生のジェンダー意識はどのようなものでしょうか？

市内の3校の中学校3年生にアンケートに協力してもらいました。



言葉遣いは男女共通

言葉遣いについては、相手を傷付けない言葉を使ってほしいと思うことが多いです。これは男性も女性も両方に言えることだと思います。

今からこんな心配も

育児ができる喜びと感じる人もいれば、大変と考える人もいる。

相手の仕事をお互い認め合っていけばいいのでは？

女性がトップって考えられない？

一つの学校の女子生徒は答えが全員「いいえ」でした。トップに立つ女性を見慣れていないかなとも思います。

自分はなれなくても、なる女性は絶対いると答えた女子生徒は複数いました。

相手に求める優しさ

自分の将来の相手には男女とも優しさを一番に挙げています。人に求めるではなく、自分がまず相手に優しくすることが大切でしょう。

「相手に期待するのではなく、相手に期待される人間になる事が大切。」というすばらしい回答もありましたが、「力ア天下にならないで」とか「暴力をふるわないで」等懇願している人もいました。

『らしさ』にとらわれない人生を…

教育の分野では、カリキュラム上の男女平等が徹底されつつあるとはいえ、日常の生活や将来に対する考え方などについては、女性と男性で大きく差があります。

女性は「豊かな生活をする」「家族と円満に暮らす」、男性は「組織の中でリーダーシップを発揮する」「社会的信用、信頼を得る」といったことにとらわれる傾向がまだ学生にもみられます。たまたま生まれた性別によって、期待される役割や、将来の選択肢の幅が狭くなってしまう問題です…

これからの社会は個性が尊重され、多様な生き方、柔軟性を持った生き方が求められます。もう一度、「女性だから、男性だから」でその人の人生を制約してしまう考え方を見直してみませんか。

男はつらいよ

男性は強くあるもの…という先入観はきついです

女性は大変？

生まれ変わったらもう一度女性という人が少なかったのは、当たり前なのか、エーッという思いなのか、少し残念です。

親の姿を見ている子供にとって、女性はやはり大変だと映るのでしょうか。

そんな女性をサポートできる社会になるといいでですね。

男性はやっぱり男性がいいと思っている人が圧倒的に多かったのは何故でしょうか。

男女とも…

男女とも「人に役立つ仕事」が多いのにはホッとさせられます。

古今東西…

やはり女らしさは「かわいらしさ」、男らしさは「たのもしさ」ってことでしょうか？

これって古今東西変わらないようです。

アンケートにご協力いただいた大楠・常葉・馬堀中学校の皆さんありがとうございました。

/ 編集委員からもちょっと言わせて

中学生のジェンダー意識のアンケートの結果をみて自分の中学・高校時代との差をあまり感じなかった私は、女子校に育ったせいだったのでしょうか。女子の可能性と家庭のあり方を教わりました。

男女共学の思想の中で育った我が家のシーラカンス殿は、相変わらず男は……。の生活を続けています。

しかし、平等と反骨の名のもとに男女の差なく育った子供達が、自分の子供を育てる頃には、もっともっとお互いが住みやすい世界になっていることを信じて今を精一杯生きていきたいと思います。



加藤 洋子

今回のアンケートにも、女性が男に生まれた方が良かったとあります。私も独身時代は働きながら日展の日本画部門に連続二回入選し、主婦となって、自分の目標を達成せずに我慢して、男に生まれたら良かったと思う一人です。市民の一人として、ニューウエーブの編集をとおして、女の幸せとは何か、人の幸せとは何かを追求して行けたらと思います。

渡辺 三枝子



今回は中学生のみなさんが性差について、どんな感覚を持っているのかまず知っておきたいと思って、アンケート調査をしてみました。短いコメントの中に、いろいろな考え方方が伺えて面白かったと思っています。

ただ、男女共同参画社会を目指していると言っても、その考え方や必要性が家庭や教育現場できちんと認識されているとは言い難い現実を見せられた、というのが正直な感想です。確かに今では名簿や運動会は男女混合となり、生徒会長にも多くの女生徒がなっていることでしょう。しかしいざ本番というときに、男女の役割分担は依然として保守的で、その人らしく生きるという価値観の定着にはもう少し時間がかかるのでしょうか。将来の世界を担う皆さん、古い価値観にとらわれることなく、自分達が社会を築くんだという気概を持っていただきたいと思います。

世界が良くも悪くも大きく変わろうとしているこの時に、男も女もお互いの能力を生かし合う明るくたくましい社会作りに参画していきたいと思います。

わが家の高2の娘と中3の息子に対しても、決してその性によって生きる姿勢が限定されるものではないことを伝えていきたいと考えています。



木村 蓉子

◎ニューウエーブは公募による市民の方によって企画、編集を行っています。
(似顔絵は、馬堀中学校の生徒さん)

お知らせ

DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)が制定されました

10月13日に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が施行され、配偶者への暴力は犯罪であると明記されました。

平成14年4月からは各都道府県に「配偶者暴力相談支援センター」が設置されます。

また、被害者は、裁判所に「6ヶ月間の接近禁止」や「2週間の住居からの退去」の命令の申立てをすることもできます。

なお、横須賀市では13年4月から女性相談専用の電話を設置し、専門の相談員による相談も受けております。(28-8177 相談専用電話)

皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部男女共同参画課 ☎ 238-8550 横須賀市小川町 11 ☎ 0468-22-8228(直通)

e-mail we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

ホームページ <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/>